幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

準拠



第二版

岸井勇雄・横山文樹 著



同文書院

第二版 改訂にあたって

本書の目的は、単に、教育課程を作成するための方法、あるいは指導案 (日案)を作成するための方法を示そうというものではありません。

子どもとはどういう存在なのか、教育課程の編成にあたっては、対象となる乳児および幼児の本質を知らなければならないのは当然のことです。 目次を一読して頂くとわかる通り、乳幼児期の本質から始まり、現代社会の保育の現場において、今何が求められているのかを幅広い見地から明らかにしています。そのうえで、教育課程の意義、指導案の必要性、評価することの意味等を示しているのです。

本書のタイトルは「あたらしい幼児教育課程論」となっていますが、その内容は、乳児保育にもかかわるものです。「保育課程論」あるいは「保育カリキュラム論」としても違和感のないものとなっています。 0 歳児から5歳児まで幅広く考える必要性の第1は、乳幼児の発達の連続性です。今ある幼児の姿を知るには、乳児からの発達のプロセスを把握しなければなりません。乳児もまた、発達の目標を小学校就学前の5歳児の姿に見ることです。第2に、働く女性の増加に伴い、近年、0歳からの保育所への入所が増えていることがあります。この点から、乳児の保育・養育の充実が求められています。第3に、保育現場の多様化です。保育施設が「幼稚園と保育所」という区分けされて時代を経て、「認定こども園」という新しい保育施設が法律によって設立されました。ひとつの園の中に幼稚園と保育所が共存するというあたらしい形が模索されているのです。第4に、幼稚園の保育所化であります。保育所に対応するための経営上の問題もあるでしょうが、「預かり保育」の時間の増加、土曜日の保育の実施、2歳児保育の開設など、これまでの幼稚園の形から変化しつつあります。

これらの理由から、本書では、幼児期からの教育的側面についての記述を中心としながらも、乳児から幼児までの発達の過程を幅広くとらえながら示していることを理解して頂きたいと思います。

そうした中で、本書の改訂の大きなポイントは、2017 (平成 29) 年の 幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要 領の改訂(定)です。今回の3法令の改訂(定)の大きな特徴は、それぞれに共通して「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を示したことにあります。詳しい内容は本書第3章で述べてありますが、特に、「10の姿」は小学校入学までの目標として、「5領域」との関係で具体的に示されたものです。本書の改訂にあたっては、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂(定)の意義を踏まえながら執筆することに努めました。したがって、章立てにも前回版からいくつかの変化があります。

教育課程、指導計画作成は、各園のおかれている状況、子どもの実態によって異なるものです。作成や評価にあたって、本書をひとつの手がかりとして頂けることを願っております。

最後になりますが、本書の共同執筆者である岸井勇雄先生が 2017 年 3 月に逝去されました。私にとっては、単なる共同執筆者ではなく、富山大学付属幼稚園、昭和女子大学でお世話になった恩師の一人です。本書も元々岸井先生がお一人で「幼児教育課程論」として執筆されていたものです。改訂の際に共同執筆者として声をかけて頂きました。本書の基礎的な部分には岸井先生の意思・気持ち・理念が十分に刷り込まれています。岸井先生からは「指導計画は援助計画です」「保育者は小児科のお医者さんと一緒です。子どもの症状によって接し方が違います」など、数多くの印象に残る教えを頂きました。改めてご冥福を祈らせて頂きます。

本書の改訂にあたって、さまざまな形でお世話になった皆様に心からお礼を申し上げます。

2020年12月 横山 文樹

目 次

			幼児期の特質 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
1			児期の発達····································
2		幼児	期の発達課題7
3		生涯	学習における幼児期の意義 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
			教育課程,全体的な計画の意義と方向21
1		教育	課程,全体的な計画の概念22
第3	3	章	「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って
			ほしい 10 の姿」39
1		主体	的・対話的で深い学び······40
第4	4	章	幼稚園・保育所・認定こども園 49
1		幼児	教育の無償化50
2		幼稚	園・保育所・認定こども園の基本的な性格50
3		幼稚	園・保育所から認定こども園への流れ53
4			のあり方,その思想と現実58
第:	5	章	教育課程,全体的な計画の基準69
1		教育	課程,全体的な計画に関する法制・・・・・・・・・・70
2		幼稚	園における教育課程の基準の変遷······75
第6			幼児教育課程の基本 93
1		環境	を通して行う教育94
2		幼児	期にふさわしい生活の展開・・・・・・・・・・・・・・・・99
3		遊び	を通しての総合的な指導 105
4		一人	一人の発達の特性に応じた指導 110

	ク章 基礎となる幼児の姿 ⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	
1	「遊び」とは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·116
2	「楽しさ」をどうとらえるか	·125
第8	3章 目的・目標と,ねらい及び内容	·135
1	目的・目標・ねらいの意味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·136
2	幼稚園・保育所・認定こども園の教育の目的と目標	·137
3	園の教育目標・保育理念	
4	ねらい・内容とその領域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第9	9章 教育課程,全体的な計画の編成と指導計画の作成…	·157
1	教育課程,全体的な計画編成の手順	·158
2	「指導」の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	.165
3	指導計画の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	.169
4	指導計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·172
第 1	 0章 教育課程,全体的な計画の評価 ······	·179
1	教育評価の意義	·180
2	指導計画と指導の評価	·181
3	教育課程,全体的な計画の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·185
	1章 教育課程,全体的な計画と指導計画の実例	
1	A 園の教育課程	·189
2	B園の教育課程と長期指導計画 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·194
3	C園の教育課程・指導計画と特色ある年間計画 ············	•208
	一度学ぶための演習問題······	
参考	文献	•223
壶	引	.225

主体的・対話的で深い学び

1 2017年の改訂(定)のねらい

2017(平成29)年改訂(定)の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、幼児教育を行う施設が共有すべき事項として、「幼児期に育みたい3つの資質・能力」および「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」が明記された。これは、2016(平成28)年12月の中央教育審議会の答申において提言された、アクティブ・ラーニングの視点からの「主体的・対話的で深い学び」の実現を念頭に置いたものである。

幼児期に育みたい3つの資質・能力

- ・豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ・気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、 工夫したり、表現したりする**「思考力、判断力、表現力等の基礎」**
- ・心情, 意欲, 態度が育つ中で, よりよい生活を営もうとする**「学びに向かう力, 人間性等**」

その土台として幼児期における非認知能力の育成の重要性が指摘されている。非認知能力とは、IQなどのような数値化された能力ではなく、「学びに向かう力や姿勢」「粘り強さ、チャレンジする姿勢」などの能力をさし、幼児期に非認知能力を身につけることが、大人になってからの生活に大きな差が生じるといった国際的な研究成果も発表されている。

ただし、この非認知能力は、これまで日本の幼児教育で重要視されてきた「心情、意欲、態度」と重なる部分が多く、この「心情、意欲、態度」を小学校、中学校、高校までの学校教育における連続性を意識して整理したものが「3つの資質・能力」ということができる。つまり、幼児期に「3つの資質・能力(の基礎)」を育むことが、非認知能力の育成とも結びつくといえる。そして、この「資質・能力」が育まれている幼児の具体的な姿を表したものが「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」である。

幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿

	初児期の終わりまでに <u>育ってはしい 10 の</u> 安
(1) 健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。(健康)
(2) 自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。(人間関係)
(3) 協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。(人間関係)
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。(人間関係)
(5) 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。(人間関係)
(6) 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。(環境)
(7) 自然との関わり・ 生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。(環境)
(8) 数量や図形,標 識や文字などへの関 心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。(環境)
(9) 言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。(言葉)
(10) 豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。(表現)

出典:文部科学省「幼稚園教育要領」2017 (文中末尾の()の5領域は筆者追記)

② 幼児期に育みたい3つの資質・能力

この「幼児期に育みたい3つの資質・能力」は、どのように育成すればよいのであろうか。まず重要なことは、この資質・能力が、これまで幼稚園、保育所、認定こども園で行われてきた遊びを通した指導によって育まれてきた「生きる力の基礎となる心情、意欲、態度」を、小学校以降の教育との関連性を考慮して整理したものであるということである。

たとえばどこの園でもみることのできる,子どもたちのどろ団子作りの遊び(活動)を例にとってみてみよう。まず子どもたちは,濡れた土に触るとぬるぬるして気持ちがいい,乾いた砂はさらさらして気持ちがいいなど,それぞれの楽しみから自主的にどろ遊び,砂遊びを始める。次に,

- ・濡れた土を丸めると団子ができる、乾いた砂に水をかけると色が変わり かたまりやすくなる(知識・技能)
- ・団子にするにはどんな土がよいのだろうか、砂場の砂と土をまぜたらど んな団子ができるだろうか(思考力・判断力・表現力)
- ・できたどろ団子でお友だちとお店屋さんごっごをしよう, もっと形の良い大きなどろ団子をつくってみよう, うまくどろ団子ができないお友だちにつくり方を教えてあげよう(学びに向かう力・人間性)

「資質・能力」という言葉だけをみると、なにか特別なことのように思えるが、実は日常的に子どもたちが遊びのなかで育んできたことなのである。つまり「知識及び技能の基礎」は、遊びを通した「気付き」や「発見」であり、「思考力・判断力・表現力等の基礎」は「こうしたらどうなるのだろうか」「ここを変えればもっとおもしろくなるのでは」というさらなる楽しみのために自ら考え工夫することであり、「学びに向かう力・人間性等」は「今度はこうしてみよう」「これを使ってこうして遊んでみよう」「~ちゃんにも教えてあげよう」というさらなる好奇心やそれによってできる人との関係を大切にしようとする気持ちの表れである。

つまり「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学 びに向かう力・人間性等」は、これまでも幼児教育の現場で行われてきた 活動(遊び)を整理したものである。

③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿

小学校以降の学校教育とのつながりを踏まえ示されたのが、この「幼児期に育てたい3つの資質・能力」である。そして「3つの資質・能力」が育まれている子どもの姿を、5領域(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」)を通して、具体的に示したものが「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」である。

たとえば、「(1)健康な心と体」を読んでみると、これが5領域の「健康」に該当することがわかる。そして、そこには「3つの資質・能力」が育った子どもの姿を見ることができる。

「幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ (知識および技能の基礎), 見通しをもって行動し (思考力・判断力・表現力等の基礎), 自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる (学びに向かう力・人間性等)。」

あるいは「(4) 道徳性・規範意識の芽生え」は、5領域の「人間関係」 に該当し、以下のように読み取ることができる。

「友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり (知識および技能の基礎)、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし (思考力・判断力・表現力等の基礎)、相手の立場に立って行動するようになる (学びに向かう力・人間性等)。また、きまりを守る必要性が分かり (知識および技能の基礎)、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら (思考力・判断力・表現力等の基礎)、きまりをつくったり、守ったりするようになる (学びに向かう力・人間性等)。」

ここで保育者として注意しなければならないことは、この「10 の姿」が就学前(5 歳児修了時)の子どもたちに 100%実現されることを求められているわけではないということである。この「10 の姿」は、「3つの資質・能力」を5 領域を通して育くんでいく上での方向性であり、現在行われている教育・保育を見直すうえで考慮すべき指標として捉えるようにしてほしい。また、「10 の姿」がそれぞれの領域のみで育成されるのではなく、「ねらい及び内容」に基づく活動全体を通じて育まれるものである。

これまで述べてきたように、一定の知識・技能を系統的に学習させようとする学校では「教科カリキュラム」をとるが、幼児期にふさわしい経験を何よりも大切にする幼稚園・保育所・認定こども園では「生活カリキュラム」をとる。

したがって、園生活の大綱としての教育課程や全体的な計画、また指導計画においても、教科別に時間割を決めて学習活動をさせるようなものではなく、子どもたちが主体的に、幼児期にふさわしい生活を展開して、その中で発達に必要な経験を得ていくようにしなければならない。

つまり、子ども一人一人が、集団の中で、十分に充実した楽しい生活が 送れるような計画を立てる必要がある。そのためには、基本的に、次のよ うな6つの要素が必要となり、それは、現実の「子どもの姿」から順次、 生まれてくるものなのである。

①子どもの姿→②ねらい→③内容→④環境の構成→⑤予想される活動→

⑥援助のポイント

この6要素のまとめ方や表現の仕方は自由であるが、この順序を誤っ

■3歳児教育課程 注) 「ねらい」の()内は「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」。

3 歳児	期]		e ^{pool}	I	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
凰	月	4	5	6	7	8
子どもの姿				になる。 ・物の取り合いや ら、トラブルが ・身の回りのこと	いる子ども同士が を思いを上手く伝え よく起こる。 を自分なりにしよっ くなり,解放感を「	えられないことか うとする。
ねらい		・園生活に親しむ((健康,社会生活)。	・好きな遊びをす	る(健康,自立心))。

てはならない。

以下の実例は、いずれも、かねてから先進的な保育を実践し、実績をあげてきた園のものである。形の真似ではなく、そこに示されている取り組み方について、大いに参考にしていただきたい。

A 園の教育課程

A園は、教育目標を下記のようにおいている。

- (1) 子どもらしく、のびやかに いきいきとした子
- (2) 自分で考え、行動し、責任をもとうとする子
- (3) まわりのすべてに心をかよわせ生活する子

また A 園の教育課程の「ねらい」は、さまざまな発達段階での「友達と遊ぶ」 ことがテーマとなっている。このことから「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」のうち「健康な心と体」「自立性」「協同性」「社会生活との関わり」 が重視されていることがうかがわれる。

			. IV		V		
	9	10	11	12	1	2	3
	 ・夏休み明ける られるが、後 ペースを取り ・夏休みの中の 期に楽しん。 出して遊ぶる ・言葉が増え、 ながら遊ぶる ・体を動かし 	はとまどいが見 はくに園生活の に関していく。 の経験や1学 だ遊びを思い ・ 思いを話し で遊ぶ。	・安心では、・安心を表現である。・物語ではいいできる。・友でのようでは、	保育者や友達 のびのびと自 て生活する。 びを好み,空 入り楽しむ。 に喜んで参加 ことを自分も とする。	かわりが広; ・気の合う友 ぶことを楽 ・身の回り, 自信 ・進級への喜 するように	雪遊びを通しがってくる。 達と言葉を交換しむ。 ことが自分でであるというになる。 でと期待からなる。	て友達とのか わしながら遊 できるように なる。 意欲的に生活
_	·好きな遊び 康,自立心) 	を楽しむ(健)。 		え達と好きな (健康,自立)。		達と遊びを進 協同性,言動	. ,

■ 教育課程(5歳児)注)「発達課題」の()内は「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」。

学年目標

・遊びの中で自分の考えを言ったり、相手の考えを受け入れたりする。 ・学級や園全体でする活動に進んで取り組み、やりとげた喜びを味わう。 ・自分なりの課題をもち、力を発揮して取り組み満足感をもつ。

学級経営 の 基本方針

友達関係を基盤にして活動の質を高め

| 友達とのかかわりの中で、話し合いながらグループ活動ができる(協同性、道徳性、社会生活、言葉)

課題	目的達成のためグループの友達と主体的に計画を立て,活動に見通しをもって 個の活動やグループの中で自己を発揮				
期	1期(4月~5月)	2期(6月~7月)	3期 (9月~10月)		
期目標	・新しい環境に親しみ、生活への期待をもつ。 ・新しい友達や教師と信頼関係を築く。 ・園生活に主体的に取り組む。 ・課題活動に積極的に取り組み、試したり工夫したりする。 ・グループ活動に意欲的に参加し、自分の考えを話す。 ・自然に親しみ、興味や関心をもって、観察したり調べたりする。	・自分なりに課題をもって、遊びや仕事に取り組む。 ・遊びを楽しく進めるために、自分なりに試したり工夫したりする。 ・遊びの中で自分の考えを言ったり、相手の考えを受け入れる。 ・自然現象や動植物の生長に興味をもつ。	・自分で考えたり工夫したりして考えたり工夫したりして個々の課題に取り組むよさや、精一杯自分の力を出す充実感を味かしたととを生かし、友達として遊びにき必要れ、季節の移りを開発したではいる。・学級を知る。・学級を明りを開発したではいる。・学級で取りものは、でするがでいる。・では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で		
幼児の実態	・新しい環境に不安を抱いたり、緊張したりする幼児も見られる。 ・ほとんどの幼児は年長になった喜びで、新しい経験や活動に積極的に取り組もうとする。・友達と一緒に遊びに必要な物を用意することができる。・友達と一緒に遊びを楽しんでいるが、自分の思いを達成しようとすることが多い。	・新しい経験や活動に参加し、満足感や充実感をもっている様子が見られる。 ・友達と色々な材料を使い、五夫し遊びに必要なものをその中で自分の意見を言った時に、る。 ・新しい友達関係ができ、その中で自分の意見を言った時に、る。 ・友達と話し合いながら工夫遊ででよと話して合いなたり、するよびよいないたりである。	・今までの経験を生かし、グループで主体的に遊びを進める。 ・ルールのあるがーム遊びを進める ・ルールのあるが一ム遊びを 動量のある遊びを 動力を合わせることの を味かう。 ・遊が明れることによるの りが増えれないこともある が続けられないこともある が続けられないこともの目的を がいかった。 ・学級の クラス全体での目的を 成するために頑張ろうとする。		
活動の選択基準	・園生活を充実させる活動 ・個々が安定する活動 ・表現を楽しむ活動 ・自然に親しむ活動 ・友達と一緒に課題活動を楽し む活動 ・園行事に参加する活動	・友達同士で遊びに取り組むことの楽しさを経験する活動・表現を楽しむ活動・自然に親しむ活動・園行事に参加する活動	・友達と一緒に楽しく遊ぶ活動 ・学級全体で共通の課題に取り 組む活動 ・表現を楽しむ活動 ・自然に親しむ活動 ・園行事に参加する活動		
経験や活動	- 当番活動 - 新入園児の世話 - 好きな遊び(大型積み木, K ブロック, ドッジボールなど) - こいのぼり製作 - 誕生表製作 - 自然観察(野菜, アサガオなど) - K森園外保育 - 英語指導, 社会事象について 知る	 ・気の合う友達と好きな遊びをする(組み木、テント、色水、プール遊び) ・学期末子ども会に向けての活動 ・梅雨について知る(天気調べをする) ・学期末子ども会 	・運動会に向けての活動(リレー, 組み立て体操, Sマーチ) ・卒園アルバムの表紙製作 ・電車製作 ・ 目緑地園外保育 ・運動会 ・電車ごっこ		
教師のかかわり	・不安定な幼児に対して声をかけたり、一緒に遊んだりすることで安心した園生活が送れるようにする。 ・遊びや活動が発展できるように教材を用意し、環境設定をする。	・生活の中でお互いの意見を言ったり、受け入れたりできるように教師は場面に応じた援助をする。 ・遊びの中で一人一人を認め、よく工夫されている幼児の作品を取り上げ、他の幼児への刺激とする。	・学級や園全体でする活動にみんなで力を合わせる楽しさを味わえるような声をかけ、援助をする。 ・お互いの思いを伝え合いながら、主体的に遊びを進めていけるようにする。		

- ・自分なりの目的をもって遊び、自己発揮できるようにする。 ・グループ活動の中で、友達の存在を認めながらかかわって遊び、 課題に向けて自分の力を十分に出せるようにする。 ・今までの園生活での経験を生かして、幼児が力を合わせて活動に 取り組み、満足感や達成感を味わえるようにする。

個を育てる(健康, 自立心, 道徳性)

取り組む (健康, 自立心, 協同性, 道徳性, 思考力, 言葉) する(健康, 自立心)

4期(11月~12月)	5期(1月~3月)
・自分なりの課題を実現していくなかで、物の使い方や仕事	・自分なりの課題をもち、力を 発揮して取り組み満足感をも
の進め方を考える。 ・自分のイメージを動きや言葉 などで表現する楽しさを味わ う。	つ。 ・目的達成のため,グループの 友達と主体的にかかわって遊 ぶ。
・相手のしたいことを受け入れ、 友達と遊びを進めていく楽し さを共感する。 ・学級全体で行う活動に、一人 一人が協力して取り組み満足 感を味わう。	・遊びの中で友達と共通の目的をもち、かかわりを深めていく。 ・友達と一緒に協力し、相談しながら遊びを進め充実感を味わう。 ・生活の中での様々な出来事に対する感動を友達と共感する。
・友達の気持ちを受け入れ、自分の考えを話しながら、みんなで楽しく遊び、活動を中心となるを表しく遊び、行動を中心となるため、友達とのかかわ言葉や傷つくことが増える。・友達と遊ぶことを連り、中間意識をもったり、仲間意識をもったり、中間意識をもったり、たっになる。・友達とかかわって一つの遊びを長い時間楽しむことができる。	・目的意識をもって活動に取り 組みでを楽しくしていく姿が見られる。 ・友達の良いところを認めることでお互いを理解し合える。 ・方でおりないを理解し合えるようになの違いによる衝突を自分たなの違いによる衝突を自分たちで解決していく。 ・小学校見学を通して1年生になる期待感をもつ。
・グループで遊びながら友達関係を広げる活動 ・共通の目的をもち、学級全体の課題に取り組む活動・表現を楽しむ活動・自然に親しむ活動・園行事に参加する活動	・友達と一緒に遊びを楽しむ活動 ・学年全体で取り組む活動・表現を楽しむ活動・自然に親しむ活動・園行事に参加する活動
 がんばり帳の活動 お店ごっこに向けての活動 学期末子ども会に向けての活動 カレンダー製作 ヒヤシンスの水栽培 チューリップの球根を植える T動物公園園外保育 お店ごっこ 学期末子ども会 	 ・好きな遊び(カルタ, すごろく, こま、福笑い, はねつき) ・マラソン ・凧製作, 凧揚げ ・郵便ごっこ ・展覧会の作品製作 ・佟の自然観察(氷, 霜柱, 梅の花) ・展覧会 ・小学校見学 ・ひな祭り会 ・お別れ会 ・修了式
・一人一人の幼児の考えを認め、 それを他の幼児にも知らせる ことで学級全体の活動に対す る意識が高まるようにする。 ・自分なりの課題を実現してい く中で苦手なことにも挑戦し てみようとする気持ちがもて るように声をかける。	・幼児同士が遊びを進めていく 様子を見守りながら必要に応 じて援助をする。 ・自分なりに考えたり、工夫し たりするように声をかける。 ・進学に向けて生活習慣の見直 しをする。

このような教育課程に基づいて、指導計画が具体化されていく。指導計画は、年間計画、月間計画、週の計画、一日の計画(日案)というように具体化されていく。

■ 一日の計画(5歳児)

注)「本日のねらい」の後の()内は「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿

5歳児 ○○組 指導案

令和 2 年 10 月 21 日 (水) 1·2·3 年保育 男児 13 名 女児 13 名 計 26 名 担任:○○○○

1. 学級の実態

明るく元気な幼児たちは、毎日友達と一緒に楽しいことを考えるのが好きで、笑顔が溢れるクラスである。幼児たちはどんな活動にも意欲的に取り組み、友達のことを進んで応援する姿も見られる。園庭では力いっぱい走ってどろけいをして遊ぶことが好きな幼児が多い。二学期になってからは毎日のように走って遊んでいたが、運動会を経験した後は、走る早さも速くなり、転ぶことも少なくなった。最近はどろけいからの発展で、子どもたちがみんなで考えた鬼遊びをして集団で遊ぶことを楽しんでいる。

新聞のニュースの切り抜きを毎日のように持って来ており、降園時に話す時間を設けている。 友達の発表に興味をもち、話をよく聞くことができる。みんなの前で発表したいという気持ち が引き出され、クラスでの話し合いの際にも自分から進んで発言をする幼児も多くなった。

遊びや日常の中で自分の思いを伝えることはできるが相手の思いを受け入れられず、トラブルが起こることもあるが、自分たちで話し合って解決しようとする姿が見られるようになった。

一学期から紙や空き箱を使った製作を継続的に行って来た。男児を中心に空き箱製作が好きな幼児が多くなり、自分なりにイメージした物を作ったり、それぞれの幼児がどのように工夫して作ったかを話したりする姿が見られるようになった。また、大型積み木やKブロックを使って、遊びの中で使う物を友達と一緒に用意し、協力して作りながら遊んでいる。今回の導入として転がして遊ぶことのできる壁面製作を行うと、多くの幼児が興味をもち、作ったりんごや本物のドングリを転がすことを楽しんでいた。転がす台の角度を変えてみたり、幼児が自分で考え、筒をつなげて作った手作りのおもちゃなどと繋げてみたりと何度もいろいるな工夫をしながら遊ぶ様子が見られた。今後も、幼児のもつ発想を引き出し、いろいろなことに進んで試してみようという思いを育んで行きたい。

2. 期目標

- ○自分で考えたり工夫したりして、個々の活動に取り組む。
- ○戸外で体を動かす心地よさや、精一杯自分の力を出す充実感をもつ。
- ○経験したことを生かし、友達と一緒に考えたり工夫したりして遊びに必要な物を作る。
- ○秋の自然に触れ、季節の移り変わりを知る。
- ○学級や園全体で行う活動に進んで取り組み、やり遂げた喜びを味わう。

3. 本日のねらい

- ○遊びの中で進んで友達とかかわり、自分の思いを伝える(健康、自立心、協同性、言葉)。
- ○自分なりにイメージをもち、工夫しながら製作活動に取り組み、友達と一緒にいろいろな ことを考え試してみることを楽しむ(協同性、思考力、数量や図形、言葉、感性と表現)。

4. 指導内容

- ○自分の思いを伝えながら友達と進んでかかわり、どろけいやドッジボールなどをして遊ぶ。
- ○自分なりにイメージをもち、工夫しながら製作活動に取り組み、いろいろなことを考え試 しながら遊ぶ。

ここでは、先に紹介した5歳児の教育課程に基づいて作成された一日の計画例と、4歳児の教育課程(2年保育)に基づいて作成された一日の計画例を紹介する。

年長 ○○組 環境構成・教師の援助 時刻 幼児の活動 9:00 ○ 登園する。 <園庭> 挨拶をする。 ブランコ Sらんど ジャングルジム ○好きな遊びをする。 どろけい ドッジボール (園庭) 多くの幼児が参加し、集 幼児が進んで友達を誘い。 ・ドッジボール 多くの友違とかかわって遊 団で遊ぶ楽しさが伝わる ・どろけい べるように援助をする。 ように、言葉をかける。 ・自分たちで話し合って、遊び が進められるように見守りな がら必要に応じて援助をし、 · 砂場 遊びながら少しずつ, ·巧技台 ルールを決めたり、確 かめたりして, ルール 遊びがより楽しめるように教 を守って遊ぶことの楽 ※雨天の場合 師も一緒に遊んだり言葉をか しさが感じられるよう (遊戯室) ける。 に言葉をかける。 ·巧技台 転んだり友達とぶつかった 一人一人が遊びの中で友 紩 りしないように安全面に気 をつけながら遊べるように 達に自分の気持ちを十分 (保育室) 棒 に伝えられるように、援 幼児の様子をよく見る。 ・工作遊び 助をする。 ・Kブロック ・描画 花壇 ・粘士 ○ 園庭と保育室両方で幼児達がどんな遊びをしているかを把握し ながら安全にも注意する。 9:50 ○片付けをする。 <保育室> 10:00 ○保育室で好きな遊び 先生用机 ピアノ をする。 Kブロック 仕掛けのある工作遊び 仕掛けのある工作遊び 棚 友達と一緒にブロックを使う中で、いろいろなアイディアを出し合いながら楽 ・幼児が自分なりにイ ・Kブロック メージしたことを取り 先生 ・ごっこ遊び 入れながら製作ができ 用机 ・描画 しく遊べるようにする。 るように、幼児の話を ・物の貸し借りでトラブルが起 共感しながら一緒に考 10:30 ○片付けをする。 きた時には話し合って解決で える。 きるように見守り、必要に応じて話を聞くなど援助をする。 工夫している点、良い 点を認めたり,他の 10:40 ○ 降園時の活動をす 幼児にも紹介して,み る。 んなで共感する。 ごっこ遊び ・帰りの支度をする。 ・自分の気持ちを十分に伝えな 作った物を使って遊び、 ・当番の交代をする。 黒 がら遊べるように、幼児の言 イメージに広がりがもて 新聞の紹介をする。 るように声をかける。 葉をよく聞き、思いを引き出 板 ・「友達になるために | 材料などを大切に使うと し、いろいろな友達とのかか を歌う。 わりがもてるようにする。 いうことに気づくことがで ・紙芝居を見る。 遊びの中で必要なものを用 きるように言葉をかけ, 意しより遊びが楽しめるよ 使った後の片付けも行う うに環境を整える。 ことができるようにする。 11:00 | ○降園 出入口

